

飛騨高山観光特集

観光基盤のまちづくりに向けて

インタビュー

外国人客は過去最高

客室5000で多様な選択肢

シルバー賞受賞喜び

岐阜県の飛騨高山が観光客でにぎわっている。古い町並など観光名所には日本人や外国人旅行者の姿が目立つ。飛騨・高山観光コンベンション協会の堀泰則会長（ひだホテルプラザ）に飛騨高山の魅力や今後の課題などについて聞いた。聞き手は編集委員の内井高弘。（2月下旬、協会事務局で）

市内は多くの人でにぎわっています。最新の入り込み状況はいかがですか。

「2024年の観光入り込み客数は42万2千人で、前年比8・6％増です。新型コロナ禍前の19年（47万3千人）には及びませんが、客足は確実に戻っています。うち、宿泊客数は24万9千人で、同17・3％増と桁の伸びです」

外国人旅行者は日本全体で見ても増えていますが、飛騨高山ではいかがですか。

「宿泊客数は76万9743人で、過去最高となりました。伸び率は70・1％で、大きく増えましたね。地域別に見ると、アジア・中東が35万1025人、欧州18万1003人、北米5万7472人、中南米1万1001人、オセアニア3万7875人、アフリカ723人などです」

オーパーツーリズムが問題になっていますが、そこまではいいですか。

「そうですね。ただ古い町並など限られたエリアに集中しているという点にはあります。狭い空間なので余計に目立つということもあります。ちょっと心配ですね」

特に飲食の面で受け入れ態勢が十分ではない。夜遅くまでやっている店が少なく、夜の観光に対応できていない。ナイトタイムエコノミーではありませんが、皆さんの協力を得て、何か手を打たないといけないと思いませんか。

「いま、宿泊施設はどのくらいあるのですか。

「17年以降急激に増え、24年1月現在では439施設となっています。客室数については、25年以降の確定分を含めると5千室の規模となります。山間部の都市にこれだけの客室数があるというのは非常に珍しく、民泊施設など



飛騨・高山観光コンベンション協会会長 堀 泰則氏

市は昨年10月、持続可能な観光地を国際的に認証する「グリーン・Destinations・シルバード」でシルバードアワードを受賞しました。

「中部地区では初の受賞となり、大変うれしいです。受賞したからといって何か急に変わるわけはありませんが、SDGsに対して真剣に取り組んでいる都市として

受けることも、裾野が広く、地域の人材・資源・産業を有効に活用できる観光の特徴を生かした地域づくりを推進させることで、国内外から選ばれ続ける、住んでよし、訪れてよしの『国際観光都市 飛騨高山』の実現に向け取り組んでいきます」

「使途については、『国際観光都市 飛騨高山』実現に向け、①観光振興（バリアフリー対策による居住、滞在環境の向上、インバウンドに対するマナー啓発の強化など）②環境保全（公衆トイレや通関機などの利用環境の向上など）③文化振興（文化財の保全や活用など）④危機管理（インバウンド医療体制の強化など）⑤組織運営（観光専門人材の確保や育成など）の5事業に充てるほか、賦課徴収に要する市の経費や特別徴収義務者の支援に活用します」

「高山には飛騨高山ヒッツアリーナ（収容人員4千人）など大規模施設が数多くあり、MICEの受け入れ態勢も充実しています。26年には8千人収容の大型施設が開発予定です。受け入れにあたっては何の問題もありません。MICEは消費額も大きいだけに積極的に誘致していく。産業団体、グローバル企業、大手企業のインセンティブ旅行などに飛騨高山の観光資源を活用したプロモーションなどを展開していきたい」

「25年度については協会としてどんな事業活動か。『観光振興については当協会と行政、各地の観光協会が連携してきましたが、一部業務の重複があるので、役割分担を整理します。05年の町村合併で各地の観光協会を高山市観光連絡協議会という組織に一括にしています。DMO（飛騨・高山観光コンベンション協会）内に『観光地域連携委員会』を新設し、その中に組み入れ、独自の地域資源の掘り起こしや誘致を一体感をもって取り組むようにします」

「4月に大阪・関西万博が開幕します。飛騨高山にもいい影響を与えるでしょうか。『外国人も含めて、万博を観た後は中部にも足を運んでほしいですね。万博をにらんでどう情報発信していくのか、検討していきたい」

「地方交付税は年々下がっていき、人口減で税収も減っています。その中で観光振興や地域振興を行うためには新しい税を導き出し、財源を確保できま

せん。宿泊税を巡ってはいろいろな意見もありますが、われわれは地元の旅協団体や観光協会などの要望を受け議論を重ね、昨年3月に13団体連名で早期導入を求める要望書を提出しました。観光関係者の総意というところです」

「使途については、『国際観光都市 飛騨高山』実現に向け、①観光振興（バリアフリー対策による居住、滞在環境の向上、インバウンドに対するマナー啓発の強化など）②環境保全（公衆トイレや通関機などの利用環境の向上など）③文化振興（文化財の保全や活用など）④危機管理（インバウンド医療体制の強化など）⑤組織運営（観光専門人材の確保や育成など）の5事業に充てるほか、賦課徴収に要する市の経費や特別徴収義務者の支援に活用します」

「高山には飛騨高山ヒッツアリーナ（収容人員4千人）など大規模施設が数多くあり、MICEの受け入れ態勢も充実しています。26年には8千人収容の大型施設が開発予定です。受け入れにあたっては何の問題もありません。MICEは消費額も大きいだけに積極的に誘致していく。産業団体、グローバル企業、大手企業のインセンティブ旅行などに飛騨高山の観光資源を活用したプロモーションなどを展開していきたい」

「25年度については協会としてどんな事業活動か。『観光振興については当協会と行政、各地の観光協会が連携してきましたが、一部業務の重複があるので、役割分担を整理します。05年の町村合併で各地の観光協会を高山市観光連絡協議会という組織に一括にしています。DMO（飛騨・高山観光コンベンション協会）内に『観光地域連携委員会』を新設し、その中に組み入れ、独自の地域資源の掘り起こしや誘致を一体感をもって取り組むようにします」

「4月に大阪・関西万博が開幕します。飛騨高山にもいい影響を与えるでしょうか。『外国人も含めて、万博を観た後は中部にも足を運んでほしいですね。万博をにらんでどう情報発信していくのか、検討していきたい」

市にシルバード、中部地区初

持続可能な観光地

国際的認証受ける

高山市は昨年、持続可能な観光地を表彰する「グリーン・Destinations・シルバード」で、シルバードアワードを中部地区で初めて受賞した。

「オランダに本部がある国際的な認証機関G.D.が実施する制度で、今回は高山市、愛媛県大洲市、香川県小豆島がシルバードを受賞」

「観光地マネジメント、自然と景観、環境と気候、文化と伝統、社会福祉、ビジネスとコミュニケーションの六つのテーマ84項目について審査し、達成度合いでアワードを授けられる。ゴールド、プラチナの各賞が与えられ、最終的に全ての基準をクリアすると認証となる。有効期間は2年」

「飛騨・高山観光コンベンション協会が昨年5月に申請し、84項目の基準のうち、高山は環境と気候、文化と伝統、社会福祉、ビジネスとコミュニケーション分野における取り組みが高く評価され、シルバード認定の基準である70％を超える75％について基準を満たした

「具体的な、30年までの二酸化炭素（CO2）排出量削減目標があり、それに向けた取り組みが実施されていることや、木質バイオマスや小水力発電など再生可能エネルギーの利用を進めていること、さらに伝統的建造物群保存地区などの有形文化財がしっかりと保存・保護され、『メイド・バイ飛騨高山認証制度』を設け、文化の継承・発展と経済の活性化を図っていることなどが評価されたという」

「G.D.Aワード受賞による効果は、①国際的な知名度の向上②観光地としてのブランド価値の向上③観光収益の増加④環境保全への取り組みの加速⑤投資と支援の増加⑥地域住民の誇りと意識向上などがあ

「例えば、①では国際的な注目を集め、持続可能性を重視する旅行者や業界からの関心の高まり、②は持続可能性に取り組む姿勢が評価されたことで、飛騨高山のブランド価値が向上する。さらに、③では持続可能な観光地を運営する旅行者が増加すると予想されるため、観光客の入り込みが増え、地域経済の活性化や観光収益の増加が期待される」

「また、田中市長は『これまでの長年にわたる先人の努力や民間事業者、市民の皆さんの取り組みが受賞という形になり喜ばしい。今後も持続可能な観光地づくりへの取り組みを進めていきたい』と強調した」



受賞プレートを手にする堀会長（右）と田中市長



外国人観光客でにぎわう古い町並

宿泊税10月1日実施

税収4億円見込む

国際観光都市実現に

の増加も著しく、カジュアルからラグジュアリーまで、観光客の選択肢が多いのは大きな特徴です」

「宿泊業界は人手不足と言われているが、観光客の増加も著しく、カジュアルからラグジュアリーまで、観光客の選択肢が多いのは大きな特徴です」

「高山も例外ではありません。コロナ禍で離れた人たちが戻ってきています。従業員の引き抜きという事態は起きてはいませんが、深刻な状況であることに変わりはありません。なかなか有効な手立てはありませんが、外国人や高齢者の雇用、女性の雇用を真剣に考えなくてはなりません。市の総合計画の中に『多文化共生社会』という文言が盛り込まれています。外国人との共生は今後拡大していくことが想定され、われわれ観光業界も持続可能なまちづくりに向けてどのように協力していくべきか真剣に考えるべきです」

「17年以降急激に増え、24年1月現在では439施設となっています。客室数については、25年以降の確定分を含めると5千室の規模となります。山間部の都市にこれだけの客室数があるというのは非常に珍しく、民泊施設など

「いま、宿泊施設はどのくらいあるのですか。

「17年以降急激に増え、24年1月現在では439施設となっています。客室数については、25年以降の確定分を含めると5千室の規模となります。山間部の都市にこれだけの客室数があるというのは非常に珍しく、民泊施設など

「いま、宿泊施設はどのくらいあるのですか。



飛騨高山観光特集

春の飛騨高山で心身リフレッシュ

祭りと桜、飛騨高山は春爛漫

18万人の人数を見込む

飛騨路に春の訪れを告げる「春の高山祭(山王祭)」が4月14、15日、高山市内で開催される。高...



ユネスコ無形文化遺産「高山祭の屋台行事」。絢爛豪華だ

日本三大美祭の一つに数えられていた。高山祭は「春の山王祭」と「秋の八幡祭」(同日9、10日開催)の総称。「山王祭」は城下町の南...

コロナ禍の影響で2020年は中止、21年は規模を縮小して開催。22年は例年通りを予定していたが、雨のため屋台の曳(ひ)き揃(そろ)えや御巡幸(ごめぐり)が中止になった。23年も15日の屋台行事が雨のため変更になったが、2日間の人数は16万8千人となり、コロナ禍前(19年)の18万2千人の9割まで回復した。昨年の人数は18万8千人ほどで、コロナ禍前の水準に回復した。今年も18万人の人数を見込んでいる。

心揺さぶる美の競演



西光寺の枝垂れザクラ

飛騨高山の春を彩るのが各地にある美しい桜。県指定天然記念物の庄川桜(庄川町)、国指定天然...

記念物の臥龍桜(二之宮町)など見応えのある桜が幸とく。幹の形が龍の臥した姿に似ている。エドヒガンザクラの大樹。4月中旬から臥龍公園で「桜まつり」が開催される。

県指定天然記念物の西光寺の枝垂れザクラは、樹齢800年以上と推定される県下でも珍しい枝垂れ桜の巨木。ヒガンザクラの変種といわれ、毎年地表に覆い被さるように花を咲かせる。見ごろは4月下旬。御母衣(みほろ)湖畔にある庄川桜はアズミヒガンザクラで、樹齢約500年といわれる。今は苔の湖底に沈んでしまった光輪寺と照蓮寺の境内にあった巨桜で、水没させるのはしのびないとして、現在の場所に移植された。見ごろは例年4月下旬から5月上旬で、満開後3日間はライトアップされる予定だ。

風情ある東山遊歩道

散策に最適

もう一つの名所

観光名所・古い町並から徒歩約10分、しっとりとした春の空気を漂わせるのが東山エリア。散策にはもってこいの場所だ。多くの寺院や神社があり、風情...

ある建物や庭園をゆっくり巡れる「東山遊歩道」(全長5.5km)が整備されている。

高山の礎を築いた戦国武将の金森長近公ゆかりの禅宗寺院などが建てられ、東山寺院群が形成されている。遊歩道はそれら貴重な文化財を巡るルートでもある。

近くにある江名子川遊歩道もぜひ訪れてみたい。小さな橋がいくつも架かり、趣のある風景が楽しめる。

最近公害をしのんでゆっくりと散策するのもいい。

飛騨山脈の自然に抱かれた奥飛騨温泉郷

個性豊かな五つの温泉地

日本一、100を超える露天風呂

個性豊かな五つの温泉地

日本一、100を超える露天風呂



漂流の側にある新穂高の湯

雄大な自然をバックに、野趣あふれる露天風呂で心も体もリフレッシュできるのが飛騨山脈(北アルプス)の麓に広がる奥飛騨温泉郷。温泉地も近く、雄大な自然を満喫できる。

平湯温泉は温泉郷の中で一番古くからある温泉地。関東方面からアクセスも良く、上高地や乗鞍岳へのシャトルバスが発着する平湯バスターミナルがある。自家源泉を持つ宿が多く、入浴施設や足湯も充実。

福地温泉は温泉郷の中でも山の静寂に包まれた秘湯的な温泉地。温泉街には朝市があり、地元の特産品を買うことができる。飛騨地産の温泉地。関東方面からアクセスも良く、上高地や乗鞍岳へのシャトルバスが発着する平湯バスターミナルがある。自家源泉を持つ宿が多く、入浴施設や足湯も充実。

宿泊客に好評

「湯巡り手形」



宿泊客に好評な湯巡り手形

郷だ。平湯、福地、新穂高、新穂高の五つの個性豊かな温泉地がある。

高山市内からはバスで1時間ほど。奥飛騨温泉郷で売られている湯巡り手形「奥飛騨湯けむり達人」が宿泊客に好評だ。豊富な湧出量を誇る奥飛騨の温泉をめぐり、三つを巡る手形となっている。

手形は一枚1200円。手形に付いている3枚の入浴シールを利用して、温泉郷の13の加盟施設からお気に入りの温泉を選んで入浴できる(施設により枚数が異なる)。

酒蔵めぐるのん兵衛まつり

6酒蔵が参加

ほろ酔い気分



酒蔵自慢のお酒でほろ酔い気分

うまい地酒がそろい踏み。古い町並が残る「さんまちエリア」の酒蔵を巡りながら、日本酒の試飲とまち歩きを楽しむ第6回「飛騨高山・酒蔵のん兵衛まつり」が6月5日から30日まで開催される。主催は飛騨・高山観光コンベンション協会。

のん兵衛まつりは、100年以上の歴史をもつ平瀬、二木、平田、老田、船坂、原田の六つの酒蔵を巡り、それぞれの日本酒を味わってもらう。これら酒蔵や中橋観光案内所、高山遊歩道バスセンターで「飛騨高山御酒飲セット」(3千円の広大な森林地帯だ。ブナや...

域や新穂の古民家を移築、改装した宿も多い。新平湯温泉は温泉郷のほぼ中央に位置し、小規模から大規模までさまざまなタイプの宿泊施設がある。飲食店も多い。名水「たるま水」もあり、名水の里ともいわれている。

新穂高ロープウェイ



2階建て Gondola から見る光景は壮観

「頂の森」は昨年10月に全面開業

飛騨高山ウルトラマラソン

6月8日開催

U25割替設定

標高差約5000m、日本屈指の難コースといわれ、フルマラソン完走経験者だけが参加できる「飛騨高山ウルトラマラソン」が6月8日に開催される。13回目。昨年は県内外から参加した3093人が100キロと71キロの2部門に分かれて出走し、2372人が完走した。海外からもエントリーがあったという。コースは飛騨高山ヒックアリーナをスタートとする100キロと71キロを完走する100キロと71キロ。参加資格は大会当日18歳以上で、フルマラソン完走経験のある健康な男女。参加費は100キロが2万2千円、71キロが1万8千円。U25はそれぞれ1万7000円、1万4800円。地元ボランティアのおもてなしと飛騨牛など地元特産品を堪能できるイベントも楽しみの一つ。問い合わせは大会事務局、0120-846-024。

自然豊かな「五色ヶ原」

3体験コース

ツアーも設定

雄大な乗鞍岳の裾野に広がるのが「乗鞍山麓五色ヶ原の森」。中部山岳国立公園の南端にある約3千坪の広大な森林地帯だ。ブナや...



森林浴で健康に